

和歌山だよいい

平成21年 4月号



子安地藏寺（橋本市）「藤の寺」
関西花の寺25ヶ寺霊場会の24番目

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P9
3. お知らせ…………… P10
4. ふるさと歳時記…………… P11



シャガ

「誰も見捨てないぞ」

世はついに世界的大不況に突入してしまいました。本県は、他県に比べると失業者の発生はそれほどでもなく、また、観光も農産物も県民皆のがんばりで健闘はしているのですが、これからも影響はじわじわと出てくるでしょうし、長期間ずっと不調であった当県の各企業や家計が過去の蓄積が少ない状態でこの不況を迎えなければならないことを考えると楽観は許されません。就任以来2年間で50件近くの企業誘致（投資決定）に成功したのですが、それらが不況への抵抗力になっている反面、ようやくこれからという時の大不況突入に、もう少し早く着手していたらなあという悔しい気持ちもぬぐえません。

ともあれ、不況の中では弱い人々にしわ寄せが行きがちです。これを防がねばなりません。特に当県では、山間部、過疎地などの地域とお年寄りです。21年度の新政策では、特にこの方面に力を入れました。地震の際、崖崩れ^{がけ}などが起こって、集落が孤立しても、助けを求める人々が見捨てられることがないよう、全国でただ一県、孤立の恐れのある集落に防災無線などが行き渡るよう一挙に配備することにしました。また、公共交通機関が消えてしまわないように手当てし、ITを使って都会の人々と同様な買い物の楽しみを持てる工夫をすることにしました。さらに、まだまだ元気のある高齢者も含め地域の人々に協力してもらって、心身の弱ってきたお年寄りを見守り、助ける制度を作ることにしました。行革の必要性も高まる中、重度心身障害者や乳幼児などへの医療費助成は何とか守れました。そして市町村と県の振興局とで、どこでどんな福祉サービスを受けられるか何でも教えてくれる総合窓口を作りました。和歌山の財政は貧しくて、人口減少、高齢化など辛い^{つら}こともあるけれど、「誰も見捨てないぞ」という心意気で県政をリードして行きたいと思います。



87名の新規採用職員を前に訓辞する仁坂知事。「百万県民の幸せを一生懸命考えること」「考えて仕事をして欲しい」「健康に気をつけること」の3点について話しました。

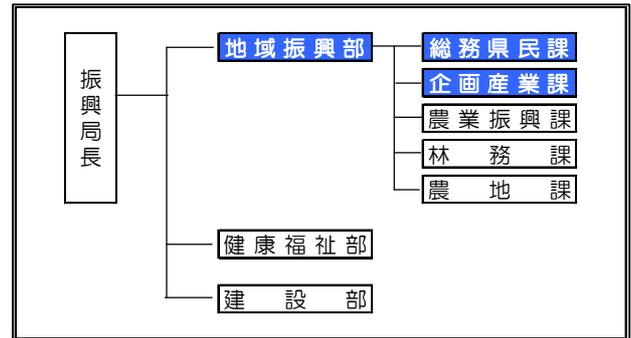
今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

● 平成21年度 組織の新体制について（主な組織改正）

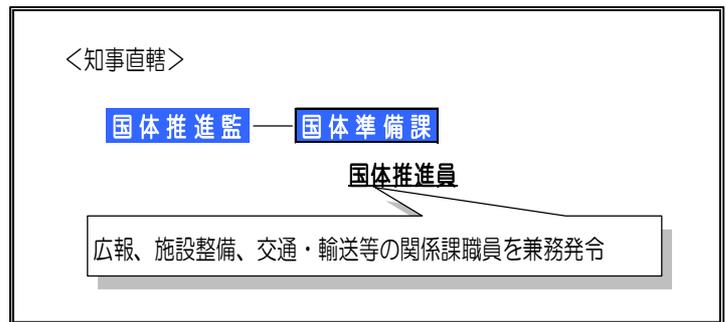
1 地域振興機能の強化

・振興局の「総務企画室」と「産業振興部」を統合して「地域振興部」を設置し、市町村・企業・団体等と連携し、地域の特性を活かしたまちづくりや産業振興への一体的な取り組みを推進します。



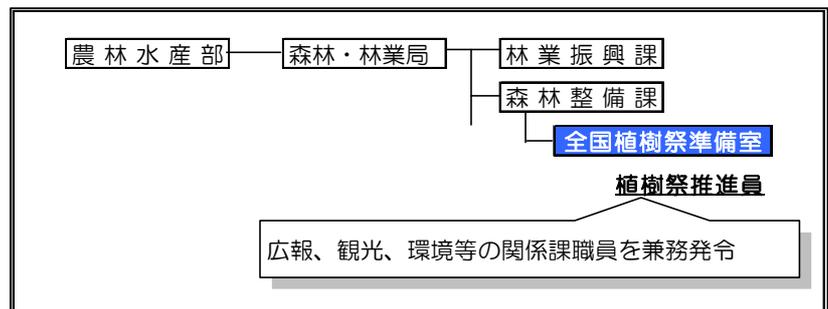
2 和歌山国体開催に向けた体制整備

・「国体推進監」（特命担当者）及び「国体準備課」を知事部局に設置し、平成27年開催の国民体育大会を「和歌山を元気にする国体」・「和歌山の魅力を全国に発信する国体」などとするための準備を推進します。また、関係課の職員を国体推進員に任命し、全庁を挙げて取り組んでいきます。



3 全国植樹祭開催に向けた体制整備

・平成23年度の全国植樹祭開催に向け森林整備課の附置室として「全国植樹祭準備室」を設置します。また、関係課の職員を植樹祭推進員に任命し、全庁を挙げて取り組んでいきます。



4 新農林水産業戦略プロジェクトの推進

・農林水産部農林水産総務課に「戦略推進班」を設置し、農林漁家の所得向上をめざし、地域や品目毎の課題に対応した生産・加工・流通・販売対策の総合的な取組を推進します。

5 廃棄物等の適正処理の確保

・環境生活部廃棄物対策課に「土砂埋立対策班」を設置し、不法投棄事案の悪質・巧妙化や土砂埋立ての際における産業廃棄物の混入などに対して、監視・指導体制を強化します。

6 女性相談所と子ども・障害者相談センターの統合

・女性相談所を子ども・障害者相談センターに統合して「子ども・女性・障害者相談センター」に改編し、女性相談所の機能を充実するとともに、関連する相談業務との連携等を強化します。

●和歌山児童合唱団が、ハンセン病療養所を訪問し、素晴らしい歌声を披露しました。 [平成21年3月27日岡山県瀬戸内市]

・国内外で活躍し、世界的にも高い評価を得ている和歌山児童合唱団が、岡山県のハンセン病療養所「国立療養所邑久光明園（おくこうみょうえん）」を訪問し、演奏会を行いました。

・3月27日現在、全国のハンセン病療養所には、和歌山県出身の方が22名入所されていますが、合唱団が訪問した国立療養所邑久光明園には、そのうち17名の方が入所されています。

・今回は和歌山児童合唱団約200名の団員のうち、中学生16名・高校生24名の方に訪問していただきました。

・指導者沼丸晴彦さんの見事な指揮の下、和歌山のわらべ唄や唱歌を次々に披露し、会場に集まった約60人の方も、一緒に唱歌を口ずさむなど、会場はとても温かい雰囲気になっていました。



●「ふるさと雇用再生特別基金」及び「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用した事業を取りまとめました！

・県では、国の「ふるさと雇用再生特別交付金」「緊急雇用創出事業臨時特例交付金」を活用して実施する21年度事業を取りまとめました。

・「ふるさと雇用再生特別基金活用事業」は、地域の実情に応じて創意工夫した事業を実施し、継続的な雇用機会を創出することを目的として、県事業として「こだわり農産物の推進による新規就農者確保」などで41人、市町村事業では、「耕作放棄地を復活し観光農園を行う事業」などで85人の雇用を見込んでいます。

・「緊急雇用創出事業臨時特例基金活用事業」は、「派遣切り」や「雇い止め」などによって離職を余儀なくされた非正規労働者や中高年齢者等の失業者に対して、臨時的な短期の就業機会を創出することを目的として、県事業として、「滞納整理コールセンターの設置」や「学校図書データベース化」などで226人、市町村事業では、「里山環境保全整備」や「不法投棄ゴミの撤収」などで364人の雇用を見込んでいます。

・なお、事業一覧は、ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/060600/10kikin/kikin/index.html>

※和歌山県ホームページ（和歌山県情報館）

●第81回春のセンバツ高校野球大会出場「箕島高等学校」の壮行式開催

・18年ぶりにセンバツ高校野球大会に出場する、箕島高等学校の健闘を祈るため、県主催で、県庁正面玄関前において壮行式を開催しました。

・西畑主将は、「甲子園では、みんなが感動してくれるようなプレーをしてきたいと思います。」と試合に賭ける意気込みを話しました。

・24日に行われた、大分上野丘との初戦は、7対3で箕島高校が快勝し、2回戦は、開星（島根県）との戦いとなりましたが、延長戦の末、4対3で勝利し、ベスト8進出を果たしました。

・準々決勝は、今大会の優勝校である清峰（長崎県）と対戦し、惜しくも敗れ4強入りはなりませんでした。今回の古豪箕島の出場には、県民大いに盛り上がり、全国に和歌山を発信することが出来ました。



・「凜烈の意気」箕島高等学校、感動をありがとう。

●たま電車出発！！

・和歌山電鉄貴志駅の猫の駅長・たまをイメージした「たま電車」（2両1編成）の運行開始式典が21日、伊太祈曽（いだしそ）駅で開かれました。全国からのたま駅長ファンを含め、7,000名の来場がありました。

・たま電車は、白地の車体に、走ったり寝転がるなど101種類のたまのイラストをあしらったもので「いちご電車」「おもちゃ電車」に続き第3弾の電車となります。また改装費に全国から1000万円以上の寄付が集まりました。車内にも、たまと足跡の絵が並び、猫の写真集などを集めた「たま文庫」が置かれています。



Designed by Eiji Mitooka+Don Design Associates

●「紀の国先人展2009」が開会

・3月24日（火）に、紀の国先人展2009の開会記念式典が、和歌山市のきのくに志学館文化情報センターで開催されました。

・紀の国先人展は、輝かしい業績を残した先人を顕彰することで、県民、特に時代を担う子供たちに郷土への誇りや愛着、夢や目標を持ってもらうことを目的としており、平成16年度から実施しています。



・今回は、新しいことに取り組もうとする進取の気性や、国や地域に貢献できる事業を興そう、発展させようとする公の精神にあふれた「社会・産業の先人たち」を顕彰。平成21年3月から約1年間の展示を予定しています。

・仁坂知事は、「和歌山は数多くのすばらしい人材を輩出している。“先人のすばらしい業績に続いて自分もがんばろう”と、若い人たちの元気につながってほしい」と、祝辞を述べました。

【今回紹介する先人一覧】

	氏名	紹介
1	内中 源蔵 (うちなか げんぞう)	みなべの梅産業発展の先覚者
2	大出 弥右衛門 (おおで やえもん)	日本のキンチャク網漁法の先駆者
3	木下 伊吉 (きのした いきち)	紀州備長炭のブランド化に尽力
4	小竹 岩楠 (しの いわぐす)	古来の名湯白浜を一大温泉郷に開発
5	野田 四郎 (のだ しろう)	地域の殖産興業に尽力、郡民に慕われた名郡長
6	堀内 仙右衛門 (ほりうち せんえもん)	ネーブル王と呼ばれた篤農家
7	森田 庄兵衛 (もりた しょうべえ)	新和歌浦の観光開発を先導
8	山本 勝之助 (やまもと かつのすけ)	地域の特産品を活かし郷土の発展に尽力した事業家
9	朝倉 金彦 (あさくら かねひこ)	近代的栽培技術を普及させた柑橘の父
10	上山 英一郎 (うえやま えいいちろう)	世界初の渦巻き型蚊取り線香を開発した事業家
11	土橋 房之助 (つちはし ふさのすけ)	捺染技術の向上に尽くした紀州の捺染王
12	宮本 政右衛門 (みやもと まさえもん)	紀州ネルの創始者
13	山田 猪三郎 (やまだ いさぶろう)	国産飛行船の初飛行に成功した航空界の先覚者
14	山葉 寅楠 (やまは とらぐす)	国産ルガノン・ピアノの量産化に成功した日本の楽器王
15	由良 浅次郎 (ゆら あさじろう)	合成染料の国産化に成功した化学工業の先駆者
16	小川 正太郎 (おがわ しょうたろう)	アマチュア野球界の発展に尽力した名投手
17	田村 木国 (たむら もっこく)	夏の全国高校野球大会の生みの親
18	佐藤 春夫 (さとう はるお)	ふるさとをこよなく愛した望郷の詩人
19	華岡 青洲 (はなおか せいしゅう)	世界で初めて全身麻酔手術に成功した医聖
20	南方 熊楠 (みなかた くまぐす)	世界の学者を振り向かせた博物界の巨星

● ドクターヘリ等の相互応援に係る基本協定の調印式を行いました。
 ～ ドクターヘリ、徳島県、大阪府と相互応援による乗り入れ開始 ～

・多数の傷病者が発生した場合や県内の出動が重なった場合などに備え、県では、ドクターヘリ等の相互応援に係る基本協定を3月23日、徳島県と締結しました。また、大阪府とも同日付けで同様の締結を行いました。

・仁坂知事は「お互いに融通し合い、県民の命が救われるなら、これほどいいことはない。」と話し、徳島県飯泉知事も「助かる命を助ける、県民の安全・安心のレベルを高められる。」と話しました。



(左：飯泉徳島県知事 右：和医大南條学長)

・和歌山県では、平成15年1月からドクターヘリを運航しており、三重県及び奈良県との間で両県の要請に応じ、本県のドクターヘリを利用できる協定を締結しています。

・今回の協定により、徳島県とは3月24日から、大阪府とは4月1日から運用を開始します。それぞれの基地病院から半径100km、約30分圏域をカバーします。

・和歌山県は県立医科大学附属病院、大阪府は

大阪大学医学部附属病院を基地に、それぞれドクターヘリを運航しており、徳島県は消防防災ヘリに徳島赤十字病院の医師が同乗するなどドクターヘリの機能運用を行っています。近隣府県のドクターヘリを有効的に相互応援する体制は全国でも初めてで、広域的救急医療体制を充実させるとともに、セイフティーネットがより広がり、重篤患者の救命率の向上や後遺症の軽減に、一層期待できることとなります。

●衛星を用いた災害情報の収集による大規模災害への対応迅速化を図ります。

・ 県は、平成21年度新政策の1つである「大規模災害への対応迅速化」事業の一環として、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と、3月24日に協定を締結しました。

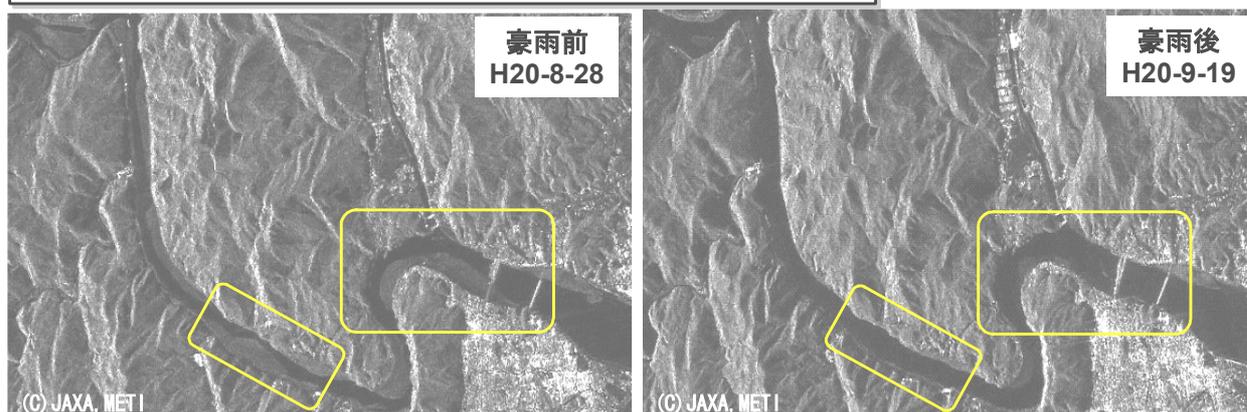
この協定により、大規模災害が発生した場合、和歌山県からの要求に応じてJAXAは陸域観測技術衛星「だいち」により被災地を観測し、画像解析により被災箇所を抽出し、その結果を和歌山県に伝送します。

和歌山県ではその情報を活用し、下記の効果により、2次災害を防止しつつ迅速な災害復旧が期待できます。

- (1) 河川等における水面変化の確認が可能。(下図参照)
- (2) 曇天でも夜間でも観測が可能。(下図参照)

これらから、孤立が発生し現場へ行けなくても被災箇所の把握が可能となり、対応人員を被災箇所に重点的に配備する等の効果が期待できます。(画像は観測要求から最大で2日以内に入手可能です。)

「だいち」を用いた水害観測の事例【熊野川の出水状況】



川幅変化箇所
黒い部分：水面，グレー部分：河原，白い横断物：橋

※ 豪雨後の画像は平成20年9月19日22時44分 曇天時に観測

●広域防災拠点基本計画を策定

・ 東南海・南海地震等による大規模災害が発生した場合、県内の複数市町村が同時に被災し、全国からの支援が必要となります。

・ そうした場合に迅速な応急活動を実施するためには、自衛隊・消防・警察等応援要員の一時集結、ベースキャンプや救援救助資機材、物資等の集積・仕分け等の役割を果たす広域防災拠点を予め確保し、国と調整しておく必要があります。

・ 平成19年度に策定した「広域防災拠点基本構想」においては、県内を4つのゾーニングに分けて検討するとともに、既存施設を効果的かつ効率的に活用することとされています。

・ この度、この基本構想を基に、各地域における広域防災拠点候補地調査等を実施し、具体的な施設並びに機能等を含めた「広域防災拠点基本計画」を策定しました。

・ 今後は、本基本計画を踏まえて、広域防災拠点の人員配置等組織的な運用方法や広域医療搬送の具体的な方法、物資の受入・仕分け等の運用方法を含めた「和歌山県広域受援計画」の策定を行なっていきます。

● 第58回日本泳法研究会開催（岩倉流泳法をテーマに）

- ・ 3月21日、22日の両日、和歌山市で（財）日本水泳連盟主催の第58回日本泳法研究会が開催されました。この研究会は、日本水泳連盟が公認する日本泳法12流派の持ち回りで毎年3月に研究会を行っているもので、今年は和歌山市の岩倉流泳法（和歌山県指定無形民俗文化財）がテーマとなりました。
- ・ 当日は、北は北海道、南は鹿児島県までの12流派、約380名が来県し、和歌山市において記念式典及び岩倉流についての研究発表、審判研修会などが行われました。翌日和歌山市民温水プールにおいて、岩倉流の実技が披露されました。
- ・ 記念式典では、主催者である林利博日本水泳連盟会長、主管者として尾崎要二和歌山県水泳連盟の挨拶があり、続いて来賓として仁坂知事が「古式泳法の本質と技術の両方を学んでおられる皆さんを範としつつ、和歌山国体に向けて協力しながら、和歌山のスポーツ界を盛り立てていきたい」と歓迎の挨拶を行いました。
- ・ 岩倉流は、宝永7年（1710）に、紀州藩5代藩主の徳川吉宗が、家臣の岩倉重昌に藩の「諸士水芸指南」を命じたのを契機にして創流された游泳術で、昭和40年に和歌山県指定無形民俗文化財となり、今年で創流300年を迎えます。
- ・ 22日の実技発表会では、岩倉流泳法保存会的那須賢二会長の合図のもと、岩倉流の会員が本物の火縄銃を使った「水中発砲」を実演し、大きな銃声を響かせました。また、立ち泳ぎをしながら色紙に文字を書く「水書」や、両手を前から後ろに引く力で飛び出す「鰐飛（いなとび）」など、岩倉流の技を披露し、参加者から大きな拍手が送られました。



岩倉流泳法：「御旗奉行」の旗持ち



岩倉流泳法：「花傘行列」

●県庁アルバイト職員新規採用のための試験を実施

・県では、新行財政改革推進プランを推進するために、アルバイト職員について、昨年6月から新規採用停止などにより、この1年間で43名の削減を行ってきました。しかし、厳しい社会情勢による県民ニーズに応えるために、アルバイト職員の最小必要数の新規採用を再開しました。

・これまでアルバイト職員は、面接の上採用してきましたが、今後は必要最小限の意欲と能力の高い人材を確保するために、県人事委員会に委託して採用試験を実施することとします。

●「スポーツ王国 わかやま 合宿ガイド」が完成

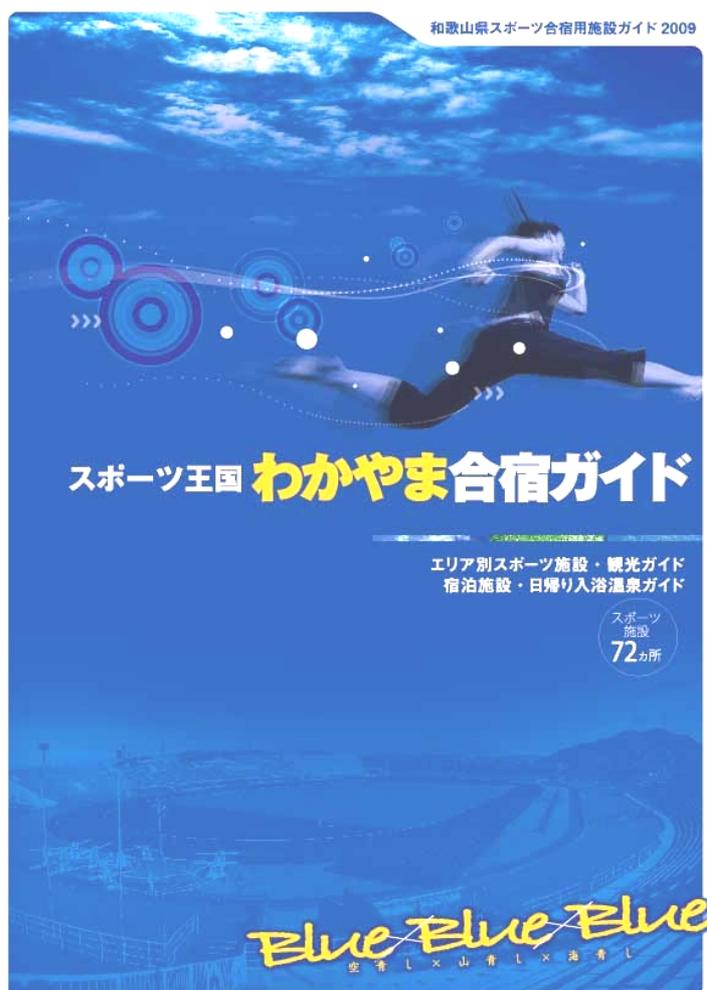
・和歌山県観光連盟は、本県の温暖な気候を活用してスポーツ合宿を誘致するため、県内のスポーツ施設や宿泊施設を紹介する「スポーツ王国 わかやま合宿ガイド」を作成しました。

・72のスポーツ施設をすべて写真入りで紹介しており、対応種目や設備、連絡先、交通手段はもとより、合宿実績や最寄りのコンビニまでの時間も記載しています。

・また、宿泊施設は収容人数を始め、客室種類、洗濯設備、昼食準備など合宿ならではのアイテムも記載しています。

・地域の観光スポットや日帰り温泉の紹介、救急医療機関ガイドも掲載しており、プロから一般の方まで幅広く活用していただきたいと思います。

(※合宿ガイドに関する問い合わせは県観光振興課内の観光連盟 073-441-2777)



4月から、インターネットショッピングモール
「ふるさと和歌山わいわい市場」が大きく生まれ変わりました。

「ふるさと和歌山わいわい市場」(以下、「わいわい市場」)^{いちば}は、県産品を県内外に広く紹介、販売するためのインターネットショッピングモールです。4月1日、今まで以上に豊富な情報と新機能を備え、下記のとおりリニューアルオープンしました。

なお、リニューアルオープンにあたり、じゃばらのインターネット販売に先駆的に取り組んでいる和歌山県北山村と連携し、同村が開発したECサイトを機能拡張することにより、新システムを構築しました。新サイトは、じゃばらの販売ノウハウが生かされたものとなっています。

また、同村が開発している「村ぶろ」^{いちば}とも機能連携し、わいわい市場内に店舗のブログが表示される仕組みとなり、生産者等の素顔や日々の活動を見ることができ、産地直送ならではの魅力あふれたサイトとなっています。

URL <http://www.wakayamaken.jp/>

出店者 県内の生産・製造者、販売者 約160店舗が出店予定(うち新規約60店舗)

販売商品 農産物、水産物、畜産物、林産物、加工食品、日用品などの和歌山県産品

実績 平成20年度売上約7,400万円 アクセス数約33万件

画面イメージ・企画内容



＜リニューアルオープン記念企画＞

「和歌山の産品大プレゼントキャンペーン」
総勢338名様に県産品が当たります！
(応募期間：4/1～5/16)

＜ぶらり紀州食べ歩き＞

月替わりで県内の地域食材をピックアップ。
4月は古座川特集。

＜和歌山大好き＞

四季の移り変わりと共に変化していく和歌山県
の様子をレポート。4月は友が島特集。

＜そのほか月々の企画・特集＞

4月は次の企画を実施。
「感謝を込めて 母の日特集」
「紀州の海の恵み しらす特集」

※6月 携帯サイト オープン予定

<http://m.wakayamaken.jp/>

※わいわい市場とは：和歌山県と県内の物産関係13団体が運営するインターネットショッピングモール。(平成13年10月1日開設)関西ウェブサイト大賞2008受賞。

※村ぶろとは：北山村が運営するブログ。(平成19年6月21日開設)地域密着型ブログとして、北山村の情報はじめ、紀州、熊野の情報を発信している。日経地域情報化大賞2007を受賞。

【お問い合わせ】ふるさと和歌山わいわい市場運営協議会事務局(和歌山県庁食品流通課)
073-441-2814(直通) FAX 073-432-4161

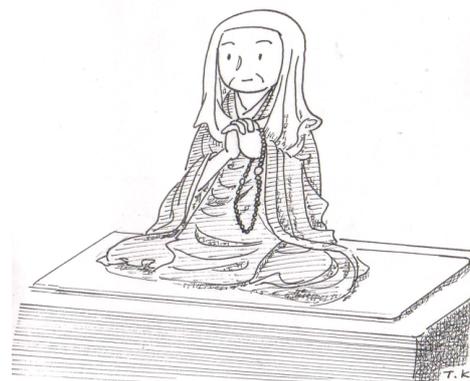
～ 応其上人、へら竿、パイル織物、子安地蔵寺 橋本市 ～
(橋本市は平成18年3月に旧橋本市と高野口町が合併して誕生しました。)

応其(おうご)上人

「橋本」という地名は、1585年に約130mもの紀ノ川に橋をかけたことからと伝えられています。その橋をかけたのが応其上人という高野山の僧でした。

応其上人は、もとは近江の佐々木氏という武士でしたが、戦で主を失い、高野山に入り出家しました。穀物を断ち、木の実などを食べる木食(もくじき)行を行ったことから、「木食応其」とも呼ばれます。

豊臣秀吉が高野山に降伏を迫った時に、応其上人は使者として赴き、交渉し高野山を守りました。また、多くの池を改修し、橋本市やその周辺の人々の生活のために尽くした応其上人は、1608年、近江において73歳で亡くなりました。そして没後400年となった昨年は、橋本市において顕彰事業が催され上人の功績を偲びました。



へら竿

紀州へら竿は、昭和初期に橋本市にある強くてねばりのある「高野竹」を穂先に使用したへらブナ専用の竹製継竿が考案されたのがはじまりです。今では、全国シェアの90%を占めるなど、へら竿の一大産地となっています。昭和63年には、「和歌山県郷土伝統工芸品」として指定されています。また毎年全国へらブナ釣り選手権大会(HERA-1グランプリ)が開催され、全国から多くの腕自慢がその技を競いに訪れます。

パイル織物

パイル織物は、基布に毛(パイル糸)が織り込まれている特殊な有毛繊維で「アザラシの毛皮(シール)に似た布地」ということから、シール織物、シールメリヤスとも呼ばれています。近年は、合成繊維などさまざまな素材がパイル糸に使われるようになり、独特の光沢と風合い、弾力性、保湿性に富む格調高い特殊織物になりました。用途は、衣料寝具、車両シート、玩具生地などきわめて多くの分野にわたり、国内はもちろん世界各国に輸出され愛用されています。

子安地蔵寺(表紙写真)

本寺は、天平9(737)年、行基が開き、地蔵菩薩も自ら手彫りしたと伝えられています。織田信長の高野攻めで焼失しましたが、初代紀州藩主の徳川頼宣により再興されました。安産祈願寺として有名です。藤の花が咲く季節には、多くの人が訪れます。

橋本市ホームページ <http://www.city.hashimoto.wakayama.jp/>

～編集後記～

皆さんはじめまして、4月1日の人事異動により、知事室次長鈴木敏彦の後任として秘書課長を拝命しました藤川崇と申します。よろしくお願いいたします。

春の暖かさを肌を感じ、春雨、朧月、春霞など、日本人の心に染み渡る季語がぴったりの季節となりました。皆さんは、それぞれのお住まいの地域でいかがお過ごしでしょうか。

新しい所属への配置はいつも新鮮であります。今回の異動は県庁のいろいろな分野の仕事に携わってきた私にとりましても、まったく初めての仕事ですので、流石に緊張の日々を送っております。

前の所属は危機管理局消防保安課でした。県民の財産と生命を守ることに日々努め、災害等で県民を不幸にしてはいけないという「志」を持って仕事している部署です。福祉、医療、防災、環境など、こうした部署は県庁に多数存在しています。「いざ」という時に備えるとともに、県民の方々が日々安心安全に住むことができるよう、地道かつ着実に仕事に取り組んでいます。また、和歌山県には、多種多様なボランティア団体や奉仕団体などがあり、各分野でしっかりと活動をしていただいております。経済状況が悪化している時であるからこそ、こうした方々とともに、県民はもとより県外からの来訪者の皆さんをも守ってゆくことが和歌山県の使命であると思います。

知事が巻頭で言っている「誰も見捨てないぞ」という堅い決意を全ての職員が実践し、100万県民から「安心して暮らしていただける。」という声が届けられる和歌山県庁を目指して一生懸命仕事に取り組んでまいります。

和歌山だよりを通じて、皆さんにそうした和歌山県の頑張りや情報を少しでもお伝えできるように努めていきますので、これからもよろしくお願いいたします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧ください。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年(平成21年)4月 NO.13

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022